
年末風景

篠義

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

年末風景

【Nコード】

N6930Q

【作者名】

篠義

【あらすじ】

関西夫夫

関西弁で、字書きはできるのか？ で、はじまった、このお話。

意味がわからない言葉があれば、連絡ください。ははははは。

短編 年末風景です

（前書き）

関西夫夫

関西弁で、字書きはできるのか？ で、はじまった、このお話。

意味がわからない言葉があれば、連絡ください。ははははは。

短編 年末風景です

この時期、俺の嫁は過酷な労働になるので、帰ってくると、へろへろとしている。俺のほうも忙しいことは忙しいのだが、あそこまで過激ではない。ということで、へろへろとしている嫁の世話をすることになる。

深夜帰宅上等、午前様全開なんてことになると、機嫌も悪いし、顔色も悪い。遅すぎて食事もおざなりになりがちだが、食べさせないと餓死する。というのも、俺の嫁は、軽い物ぐらいは食っているが、基本、晩メシは、家で、という人間だからだ。だから午前様であろうと、必ず、お茶漬けくらいは食べている。

なんでもいいから、晩メシを食え、と、昔は注意していたが、「あほかっつ、その時間があつたら、仕事終わらせて家へ帰るんじやつつ。」と、可愛いことを言ったので、もう言わない。

つまり、それは、俺の顔を早く見たいと言い換えられると思うからだ。自惚れではない。なんせ、俺が寝ていても、ヤツは寝室へ押しかけて、「ごはんー」と、暴れるからだ。

今日は区切りがついたのか、割りと早めに帰宅した。へろへろと居間へ座りこみ、パタンとこたつに足を入れて倒れこむ。

「みなと、スーツが皺になるから、それだけは脱げ。」

「もう、ええ。」

「あほかっつ、プレスすんの、俺やんけっつ。」

で、俺の嫁は、梃子でも動かないので、仕方なくネクタイから外す。どこの小僧じゃつと、怒鳴りつつ脱がせるのだが、割りと、これは楽しい作業だ。

「なあ、花月。」

脱がせている途中で、珍しく、俺の嫁が起き上がった。

「なんや？ スポン・・・ほれ、腰浮かせんかい。」

「腹減ったんやけど？」

「ああ、できてるけど、スーツだけな。」

「ついでに、疲れてやりたいねんけど？」

「はいはい、風呂で洗うてからな。」

「・・・おま・・・せつかく、人が誘ったってのに、それだけかい？」

「なんでもええわ。せつかく、はよ帰ってきたんやから、メシを食うてくれ。」

「メシいらん。」

「このどあほつつ。餓死したいんかいつつ。」

「一食抜いただけで餓死できんねやったら、俺、とうの昔に三途の

川渡ってる。」

疲れていて、もう動きたくないのか、俺の嫁は、ぐたぐたと文句を吐くと、また寝転がる。とにかく、スーツだけは脱がせて、ワイシャツにトランクスなんて格好にさせることだけは成功した。

「ちよつ、みなと。そこで寝るなよ？」

「わかつてる。・・・ダーリン、あーんってしてえー」

「おまえ、酔ってるんか？」

「いや、もう手動かすのも面倒なんよ。食わせろ。」

「うわぁー、どこのお代官様？ それ。」

ものすごいことを言っているが、俺は別に気にしない。これは一種の甘えだから、これはこれで楽しいからだ。こたつに食事を運んで、「しょうが焼きやけど、にやんにやんしたったほうがええんか？ ハニー」と、声を掛けた。

「おまえの噛んだんなんかいらんっつ。」

「ほな起きて食べ。俺も、まだやったら、自分のを先に食うで。」

けつと、舌打ちして、俺の嫁は、のろのろと起き上がって箸を手にする。体力をつけさせるべき豚のしょうが焼きにした。付け合わせは、キャベツの千切り。それに、大根の味噌汁という陣容だ。

いただきます、という挨拶もなく、がつつと、箸で豚を掴むと、

はぐはぐと無言で食べているところを見ると、本気で空腹だったらしい。一心不乱に食べている俺の嫁というのは、なかなか楽しい。それも、料理の熱さを気にしないで、がつ食いしているところが、なかなか、俺の心をくすぐるのだ。俺の嫁は極度のネコ舌で、熱いものは食べられない。だから、用意する料理は適度に冷ましてある。それを本能的に知っているから、俺の嫁はばくばくと食べているのだ。味噌汁を、ごくごく飲んでいるところなんぞ、我が家でしか見られないレアな動作だ。

「ええなあー和むわー。やっぱ、俺、おまえを嫁にもろてよかったわ。」

作ったものを、食べてくれる姿というのは、とても嬉しいものだ。それも、空腹を我慢して家まで帰ってくるというのが、さらに、いとしさを倍増させる。

俺が何をわめこうと、スルーしているのも、おかしい。まあ、いいのだ。存分に食べさせて満足させたら、今度は俺が満足させて貰うんやから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6930q/>

年末風景

2011年10月8日12時47分発行